女医のチカラ
Joi no Chikara

あゆみクリニック院長

藤川万規子さん

理想の医療を求めて開業した地域密着「街のお医者さん」

ふじかわ・まきこ　千葉県市川市出身。東邦大学医学部卒業後、淀川キリスト教病院でローテート研修。その後、東京都内の一般病院で内科研修を積みながら生活習慣病の管理に力を入れる。その後、海外医療奉仕活動や出産育児の傍ら、埼玉県内の一般病院に勤務。2000年10月にあゆみクリニック（埼玉県春日部市）を開設。糖尿病やアトピー性皮膚炎の治療を求めて遠方からも多くの患者が訪れる　撮影=増田　智

威圧感を与えないようにTシャツエプロン姿で診療

東京のベッドタウンとして多くの住民を抱える埼玉県春日部市。一軒家や集合住宅の立ち並ぶなかに、藤川万規子さんが理事長を務めるあゆみクリニックは開設されている。開業から五年あまりながら近隣住民の信頼は厚く、地域のかかりつけ医療機関としての役割を果たしている。

あゆみクリニックの標榜診療科目は内科・循環器科・アレルギー科・小児科・皮膚科・リハビリテーション科と多岐に渡っており、基本的には藤川さんがその全てを受け持つ。特に力を入れているのは糖尿病治療。同院には常時三、四名の管理栄養士がおり、患者の栄養指導と院内の行動管理を行っている。また、漢方の処方を交えた小児のアトピー性皮膚炎治療の評判も高く、小児の患者も多く抱えながら、日々診療にあたっている。この他にも特殊外来として、更年期障害外来も開設。まさに「街のお医者さん」という表現がぴったりだ。

藤川さんが白衣を着用していないのは、「患者さんに威圧感を与えたくない」という理由から。その代わりに、親しみやすいデザインのクリニックオリジナルTシャツを作成

し、エプロンとともにスタッフ全員で着用。無添加の壁や無垢の木を採用したという待合室の雰囲気も穏やかで、アレルギー患者や小児患者によく配慮されているという印象を受ける。

ジェネラリストを目指してローテート研修を選んだ

整形外科の開業医だった父親の背中を見て育ち、医師になろうと決意したという藤川さん。「父はいわゆる〝昔の〟医者だったので、整形外科だけではなく、さまざまな病気を診ていました。私の医師としての理想像も、実はそこにあります」と説明する。だからこそ、卒後研修といえばほとんどがストレート研修だった時代に、ローテート研修を行っていた淀川キリスト教病院を研修先に選んだ。そこで各診療科を回り、内科を中心とした幅広い診療科の臨床技術を磨いたという。

「学部生の時には、将来自分が開業するなんて思ってもいませんでした」と語る藤川さん。「亡くなった父のあとは兄が継ぎましたので、自分はずっと勤務医でやっていこうと決めていたのです。出産・子育ても経験しました。特に子育てしていた時は心身ともに大変でしたが、医師は自分の天職だと思っていたので、辞めようとは思いませんでした。でも三五歳を過ぎ、『このまま病院に勤務していては、自分が理想とする医療はできない』ということに気づいたのです。加えて、子どもを三人抱えていたので、自分のペースで働きたいという考えもありました。そこに知人を通して話があり、開業を決意したのです」と当時を振り返る。

「あゆみクリニック」の名前の由来は、「地元の方々、患者さんたちとともに病気とつきあい、歩んでいこう」という理念からとのこと。開院当初から糖尿病患者の友の会「あゆみクラブ」を設立し、その名のとおり「歩く会」と称してウォーキングのイベントを開催。それ以外に栄養指導を交えた食事会や、日帰り旅行なども定期的に実施している。

「以前勤務していた病院でも、糖尿病患者の会を結成していました。昔は糖尿病の情報を患者に提供することが患者会の主な目的でしたが、現在はテレビや本ですでに情報を得ている患者さんが多いようです」

現在は糖尿病のみならず他の生活習慣病患者の方もクラブに加えている。実践的な活動をしているのが功を奏してか、現在の会員数は約一〇〇名にまで増加したという。

↑毎週月曜日には看護師・栄養士・事務職を集めて昼食会兼ミーティングを行う

→この春に開催された「歩く会」の様子。同じ病気の患者同士で励ましあいながらウォーキングを実践

欲張りな性格のおかげで医師としての現在がある

この他に、訪問診療も藤川さん自ら行う。こうしたさまざまな診療活動を「あれもこれもと欲張ってしまう性格なんです」と笑って話す。

「私は医師の道を歩みつづけながら、女として、親としての道も歩んできた。こういった多くの経験が現在役立っています。だから若い医師には、いろいろなことにチャレンジしなさい、と言いたい。二〇代、三〇代の経験は必ず後に活きてきます」と後輩たちにエールを送る。

「かかりつけ医」の定義とは何か、という問いに「患者の健康を管理してあげる医師」と答える。「疾患を早いうちに発見し、病院に紹介して治療してもらうことがクリニックの役割です。その患者さんが回復して、当院に戻ってきてくれたときに喜びを感じます。他人の人生に関わって、よりよい生活のためのお手伝いができるということ、これが私の医師としてのやりがいです」

開業当初には三名だったスタッフも、現在は看護師・栄養士・事務職合わせて二〇名弱になっている。「今後もこの規模で診療を続け、地域の住民の方々とともに歩んでゆきたい」とささやかな夢を語った。B